



↑思わず立ち上がってチップを賭ける
↓絵の中のおかしなところを指さす



新宿の高層ビル群が間近にそびえる場所にありながら、どこかホッとする雰囲気。若貴兄弟が育った相模原市にある「マ・メゾン」は、2006年にデイサービス（定員25名）を、09年に小規模多機能型居宅介護（登録定員25名）を開業。通いを中心としたサービスを通じて、ひと味違った介護予防プログラムなどを展開し、全国から注目を集めている。

【第3回】
デイサービスセンター マ・メゾン中野弥生町
リビング マ・メゾン中野弥生町
(東京都中野区)

撮影◎満田美樹

介護のヒント

介護に関わる全ての人の「ヒント」になる、ある施設独自の取り組み。そんなノウハウの数々を、全国から集めてみた。

【第3回】

デイサービスセンター マ・メゾン中野弥生町
リビング マ・メゾン中野弥生町
(東京都中野区)

撮影◎満田美樹

【ヒント1】 思わず立ち上がってしまふ人も アミューズメントカジノの効果

フランス語で「私の家」を意味する「マ・メゾン」は、ビルの2〜3階に施設を構える。訪れた日には、介護予防プログラムの一環として「脳トレ&アミューズメントカジノ」が3階ホールで行われていた。

まずは、「特定非営利活動法人」とからだの介護予防協会」のテキストを使用しての脳トレーニング。椅子に腰かけている20人ほどの利用者を前に、スタッフがパンダの塗り絵を見せて「黒いのはどの部分？」と聞いて考えてもらう。次は、街の様子を描いたイラストの中から、おかしなところ

の思いを込めて、2006年にデイサービス（定員25名）を、09年に小規模多機能型居宅介護（登録定員25名）を開業。通いを中心としたサービスを通じて、ひと味違った介護予防プログラムなどを展開し、全国から注目を集めている。

な情景などないといえ、「マ・メゾン」で行われているカジノにもかなりリアルなものがある。お金こそ賭けないが、チップなどの道具には本物を使用。ジャズが静かに流れる中、白いシャツに蝶ネクタイ、黒いベストのディーラーがルーレットを回す。実は彼も職員なのだが、立ち居振る舞いもしっかりと学んでおり、なかなか本格的だ。

ゲームは、「ビッグシックス」と「ルーレット」の2班に分かれて行われた。どちらも、ディーラーがルーレット盤に転がしたボールの止まる数字を当てるだけと至ってシンプル。プレー内容も、36までの数字やEVEN（偶数）、ODD（奇数）などと書いてある場所に



↑絵になるディーラーは職員矢口さん
←どの番号に置こうか迷って……

スタッフの力を引き出す

ディーラーを務めるのは、介護スタッフの矢口孝介さん。23歳の若手職員だが、このためにカジノのプログラムを提供している事業者の元へ週2〜3回、約半年間通って技術を学んだ努力家。今や「マ・メゾン」にとってなくてはならない存在となっている。

「ルールは簡単ですが、ディーラーとしてどう盛り上げるか、どう楽しんでいただくか、そこがなかなか難しいんです」と矢口さん。それだけに、「盛り上がって笑顔が見られるとうれしい」と、やりがいを感じて取り組む。調理学校出身という経歴を生かし、そば打ちの際にも活躍するそうだ。

「マ・メゾン」の楽しいプログラムは、こうして職員のやりがいや特技を引き出し、活用することにもなっている。そのことがまた、訪れる人の笑顔につながる「見えない力」になっているのだろう。

自分のチップを置き、ボールの行方を見守るだけ。単独の数字に置いて大当たりを狙うか、偶数・奇数の枠に置いて手堅くいくかを……。ルーレット盤が回るたびに「一喜一憂し、気がつく」と夢中になっている。

置く場所に悩む人には、「お誕生日の数字は？」などとスタッフが軽くアドバイス。次第にヒートアップしてくると、思わず立ち上がり手を伸ばしてチップを置いたり、大当たりで拍手をしたりして盛り上がった。

【ヒント2】 「笑顔づくり応援団」として 楽しいプログラムを次々に実践

「脳トレ&アミューズメントカジノ」は、「緊張感のある脳トレと、リラックスポイントゲームの組み合わせがよいようです」と田口善彦総責任者は話す。カジノを取り入れた理由を聞くと、「介護度や年齢、性別に関わりなく楽しめること。笑顔が出ますし、つい立ったり座ったりすることが運動になるのです。また、カジノという非日常性が高い刺激になるのではと考えました」との答え。その効果については、数字

音楽セッションなど 多彩な楽しみを展開

「やはり、人は楽しいところに集まります。私たちが、笑顔づくり応援団（田口総責任者）のように、この思いを軸にして、「マ・メゾン」では要介護になることを予防したり、介護が必要になっても進行を抑えたりするためのプログラムとして、カジノ以外にもさまざまなことを取り入れている。

たとえば、替え歌も楽しむ「音楽会」、健康づくりは足元からをテーマにする「フットケア」。さらに、みんなで作って食べる「そば打ち」や、創作意欲を引き出す「陶芸」などなど。そば打ちや陶芸には介護スタッフの子どもたちも参加し、にぎやかに過ごした様子が壁に貼られた写真からも伝わってくる。



大きな声を出して歌い、体も動かす音楽セッション



力を合わせて、そば粉をこねる 仕上がりはいかに？ 陶芸教室

11月からは、栄養改善をテーマにした全10回のプログラムを実施する。